

日刊 動労千葉

87.11.25
No. 2709

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二二七二〇七

強制出向粉砕闘争。 物販才凡少を強化し 支部大会の成功を！

十一月二二日、動労千葉は、拡大執行委員会を開催し、当面する闘いの課題について意志統一をおこないました。闘いへ向けた方針論議の深化のために、中野幸一氏の報告（発行）を掲載します。

労線「統一」は戦争への道

全労連が発足し、「労資協調」の枠をこえた自民党を支持する労働組合ならざる労働組合の流れが始まった。「ブラックマンデー」と呼ばれる十月の株価の大暴落は、一九二九年の大恐慌にも比すべき事件である。しかし、当時の、二九年恐慌、三七年侵略戦争への全面的突入、四〇年の産業報国会結成という状況から見ても、現在の労戦「統一」の動きは非常に早いペースだと言える。戦争へ向けて、城内平和をつくっていくこうとするものすごい攻勢的な攻撃がはじまっているのである。

こうしたなかで、労働組合として、本来の機能を発揮できる組織が存在していることは非常に重大なことである。動労千葉としては、全国の闘う仲間と連帯して動労千葉を中心とした全国潮流の形成ということをも含めて、対処していかなければならないと考えているが、いずれにしても、労働運動的な観点から見れば、ひとつの画期が、全労連の結成ということでは始つたという認識をもたなければならぬ。

表面化し始めた鉄道労連の矛盾

JR内では、われわれの認識どおり、分割・民営体制下の矛盾が日々刻々と具体的な姿をとって露になつていく。千葉でも、施設関係で二人目の殉職

事故が起きている。ここには、JR内の矛盾が象徴的にあらわれている。

また、国鉄労働運動のなかでも、鉄道労連内の非常に大きな矛盾が、また表面化しつつある。鉄労が「大公望の会」なる組織を結成し、革マルと対決するというのが始まり、二月の鉄道労連大会に向けて、また一波乱が起きようとしている。

強制出向粉砕闘争の強化を

いすみ鉄道の出向問題では、動労千葉の闘う姿勢によって、東京のような場合にはいかならない状況のなかで、当局側も運転職場の過半数を握り、最も強い団結力・戦闘力をもっている動労千葉を無視しえなくなっている。

当局側は、一月六日と言っているのでも、十二月二十日前後が事前通知ということになる。この山場へ向けて、今後の出向攻撃との闘いの展望を含め、強制出向的なやり方、労働組合・本人の意志に反したやり方をしないという力関係をづくりあげていくことが絶対に必要である。このような立場で、この一ヶ月を全力で闘いぬく必要がある。

エハニー・ミニ粉砕へ闘いの体制を

もうひとつの課題は、来年三月のダイ改をめぐる問題である。千葉管内で四千キロの増発をしようとしているが、

併せて、運転関係では、兼掌化を中心とした合理化、スピードアップを、またも強行しようとしている。われわれは、「六三・三ダイ改」粉砕の闘いを運転保安闘争として、乗務員分科の委員会なども濾過しながら、強固につくりあげていかなければならない。

千葉への広域配転導入許すな

また、こうした攻撃の過程のなかで、東北・信越地区から千名規模で、広域配転が提案されている。（千葉には二百名と言われている）この攻撃に対しても、強制出向・粉砕という立場にたよった広域配転粉砕闘争を強化しなければならぬ。

冬、季物販の目標達成を

さらに、事業部運動の当面する柱である冬季物品販売についても、十一月二八―二九日に予定されているカナメ商事のイベントと併せて、更に各支部の取り組みを強化し、積極的な闘いを展開していかなければならない。

支部大会の成功をかちとろう

最後に、強制出向粉砕闘争の強化と組織財政基盤確立路線を全組織的に定着させるために、年内に、各支部大会を開催し、闘いの体制・新たな飛躍への基盤を確立することが、ぜひとも必要である。このような闘いを、反合連転保安闘争の再確立を基礎に展開していく。本部としても、十二月十九日、臨時大会を開催し、闘いへの体制を固める決意である。

一流ブランド
冬物特別セール
市価の30%~50%OFF!!
11月28日(土)~29日(日)
10:00~17:00 (2日間とも)
千葉県労働者福祉センター4F
カナメ商事